

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第2区分
【発行日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【公表番号】特表2000-510859(P2000-510859A)

【公表日】平成12年8月22日(2000.8.22)

【出願番号】特願平9-541586

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 31/167

A 6 1 P 25/28

A 6 1 K 31/135

【F I】

A 6 1 K 31/165 6 0 2

A 6 1 K 31/00 6 2 6 N

A 6 1 K 31/135

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月21日(2004.4.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年 4月21日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成09年特許願第541586号



2. 補正をする者

氏名(名称) アンジェリーニ・リチエルケ・ソシエタ・ベル・
アチオニ・ソシエタ・コンソルティレ

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 F A X 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆



4. 補正対象書類名 明細書および請求の範囲

5. 補正対象項目名 明細書および請求の範囲

方式
審査

6. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙の通り補正する。

(2) 明細書、第4頁、第1行、「……………示している。」の後に、改行して次の記載を加入する：

「J. C. S. ブライトナーらは、痛みと発熱を治療するためのパラセタモールを投与した患者に関する回顧的な研究について言及している（ニューロバイオロジー・オブ・エイジング、第16巻（4）、1995年、第523頁～第530頁）。アルツハイマー疾患を治療するために患者に予め投与される薬剤は製造されていなかったが、この研究は、パラセタモールを用いる治療がアルツハイマー疾患の発病を統計的に有意に遅延させるかどうかを究明するためになされたものである。この結果は否定的であった。

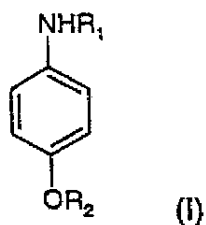
国際公開WO-A-9528153には、神経変性疾患を治療するための特定のベンズアミド化合物が11種類開示されている。これらの化合物の活性は、他の構造的に密接に関連する物質の場合には活性がないという事実に基づけば、予想外で予測できなかったことであるとされている。また、化合物の構造が僅かに変化することによって、効能と毒性の点で大きな相違がもたらされると報告されている。」

以上

[別紙]

請 求 の 範 囲

1. 神経変性疾患の治療に有用な医薬組成物の調製のための式



[式中、 R_1 は水素または低級アシル基、および
 R_2 は水素または低級アルキル基]

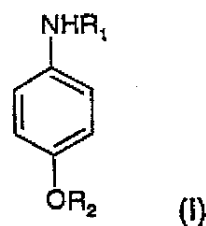
を有する化合物またはそのプロドラッグの利用。

2. 式 (I) を有する化合物がパラセタモールである請求項 1 に記載の利用。

3. パラセタモールのプロドラッグがプロパセタモール、アセトアミノサロール
 またはアセトアミノサロールグリシンエステルである請求項 2 に記載の利用。

4. 疾患がアルツハイマー疾患である請求項 1 または 2 に記載の利用。

5. 神経変性疾患にかかっている患者を式



[式中、 R_1 は水素または低級アシル基、および
 R_2 は水素または低級アルキル基]

を有する化合物またはそのプロドラッグの治療に有効な量を用いて処置する治療方法。

6. 神経変性疾患がアルツハイマー疾患である請求項 5 に記載の方法。

7. 式 (I) を持つ化合物がパラセタモールである請求項 5 または 6 に記載の方法。

8. 治療が式 (I) を有する化合物または当量のパラセタモールのプロドラッグ

の1日投与量を $0.01 \sim 200 \text{ mg/kg}$ とすることを含む請求項5に記載の方法。

9. 治療が、パラセタモールまたは当量のパラセタモールのプロドラッグの1日投与量を $10 \sim 100 \text{ mg/kg}$ とすることを含む請求項5～7にいずれかに記載の方法。

10. 治療が、パラセタモールまたは当量のパラセタモールのプロドラッグの1日投与量を $15 \sim 75 \text{ mg/kg}$ とすることを含む請求項9に記載の方法。